

加藤恭子ゼミナール×登竜門企画「二十歳の頃」

夢がなくとも・・・

A班 坂井 津野瀬 富樫 中川

動機

私たちはこの登竜門企画のインタビューをどなたにお願いするかと考えた際に、「多くの人と接していて、人と強い繋がりのある方」にお願いしようと決めました。それは、私たちが社会に出るにあたり何が必要かと考えた結果からです。また私たちの班員の一人に、将来CMクリエイターに就職を希望する者がいたので、そのような仕事も手掛ける「広告代理店の方」にインタビューをお願いしたいとも考えました。そこで、今回のインタビューは地域密着で広告代理店である「株式会社S」を運営されている、宮崎浩一社長にお願いをいたしました。

プロフィール

- ・株式会社S 代表取締役 宮崎浩一さん
- ・25歳の頃、税理士事務所に就職。
- ・31歳の頃、印刷所(現株式会社S)に転職。
- ・38歳の頃、株式会社Sの代表取締役に就任。

インタビュー内容

宮崎社長は高校を卒業し、大学入学のために二年間浪人をされました。この間、特に夢は持っておらず、ただ漠然と大学進学のために日々勉強をされていたそうです。

また中学、高校時代と部活動として剣道をされていました。剣道を通して宮崎社長は忍耐力や精神力を育み、それらは今でも活かされているとおっしゃっていました。学生時代は飲食店でアルバイトもされていたようでそこでは、人との接し方、言葉遣いを学び、それらも今に活かされているそうです。

そして宮崎社長が予備校に通っていたある日、駅で大原簿記学校の広告を目にし、そこで税理士という職業に興味を持たれたそうです。それがきっかけとなり、税理士について深く調べていくうちに、税理士という職に就くことが当時夢を持っていなかった宮崎社長の夢となりました。こうして宮崎社長は大学受験を断念し、大原簿記学校に入学されました。入学後、二年で税理士の資格を取得し、税理士事務所に就職されました。

宮崎社長はその頃ご結婚もされました。当時、宮崎社長の奥様のご家族は印刷所を

経営しており、結婚を機に宮崎社長に「印刷所を継がないか」という話を持ちかけたそうです。宮崎社長は悩んだ末に、継ぐ(転職する)決意をしました。当時宮崎社長は31歳でした。それから7年間下積みしたのち、38歳で代表取締役役に就任されました。

インタビューから私たちが得たこと

まず一つに、過去に取り組んだことは将来に生きるということ。宮崎社長は学生時代に取り組んできたアルバイトの経験や剣道というのは現在に活かされているとおっしゃっていました。また、税理士の事も現在の実務で使えるということから、過去取り組んだこと全てが現在に生きる私たちは感じました。よって、私たちはこれから取り組んでいくこと全てに熱を持って一生懸命にやることが重要だと思いました。

そして両親への感謝の気持ちを日々感じる。宮崎社長は親への感謝の気持ちを日々持ち続けることも大事だとおっしゃっていました。

三つ目は、スタートは遅くてもいいということ。宮崎社長は31歳の時にそれまでは全く関わっていなかった新たな分野に飛び込み、今現在活躍されているということで、どんなにスタートが遅くとも自分の熱意次第でどうにかなるおっしゃっていました。

最後に、夢は無くてもいいということ。もし20歳で夢を持っていなくても、夢となるもの(夢のきっかけ)というものは日常生活の中でいくらでも転がっているものなので、それらを感じ取れるアンテナを日々張っていればいつか夢ができるとおっしゃっていました。

感想

今回のインタビューを通して私たちは、宮崎社長から今後私たちが日々生活していく上で、とても前向きになるような言葉ばかりを頂きました。その言葉はいくつもありましたが、特に「過去取り組んだことは将来に生きるということ」は、常に心の中で復唱しながら生活する必要があるように感じました。

最後になりますが、この登竜門企画を企画された加藤ゼミの方々へ感謝の意を表させて頂くと同時に、インタビューにご協力して頂きました宮崎浩一社長に改めて深く御礼を申し上げます。